

コラム

節電中の街を歩く

地球環境ユニット 地球温暖化政策グループ

高橋 良介

3月11日に発生した東北・関東大震災は報道されている通り、各地に甚大な損害を与えている。まずは被災された方々に心よりお見舞いを申し上げたい。

さて、その被害として、福島第一原子力発電所などの太平洋側に立地している原子力・火力発電所にも重大な影響を及ぼし、供給力が想定される需要を下回ったことから、予期せぬ大規模停電を防ぐために東京電力は3月14日より計画停電を実施した。また東北電力も実施を計画している。そのため電力需要を下げるために国民的な節電が求められることとなったのはご承知のとおりである。そして、節電が要請されるようになって一ヶ月余りが経過した。東京電力営業エリアでの計画停電は先月28日を最後に実施が見送られ、今後も原則として実施しないとしているが、国や電力会社からの節電の要請自体は継続中である。本稿では、節電実施中の街を歩いて目にしたことや感じたことを通して、今後のことについて記したい。

朝屋外を歩く分には、特に街の雰囲気に変化は感じない。しかし買い物のためにコンビニに入ると照明が間引かれていたり、ケース内の照明が消灯されていたりしている。以前と比べれば薄暗い印象であるが、不自由はしない。地下鉄に乗れば、ラッシュ時の本数は変わっていないらしく、混雑具合は私が乗る路線ではそう変化はない。ただし、ホームへのエスカレーターは閉鎖されているので、階段は混雑する。また、3月中は厚着をしていたので暖房が切られていても気にならなかったが、段々と暖かくなってきたので、空調が切られていると人の熱気で少々暑さを感じる。これからさらに気温が上がっていくことを考えると、夏服でも汗だくになって通勤することになりそうだ。

研究所が入居するビルのエントランスホール付近は日光が入って明るいですが、奥に入るにつれて照明を間引いた分暗くなる。また各階のエレベーターホールの蛍光灯は通路方向と垂直についているため、1本ごとの距離が長く、これから間引くと余計に蛍光灯の間隔が広がり照度不足を感じる。間引くことを想定して設計されていないのだから当たり前である。

仕事を終えて家路に着くと、ショーウインドウの類は軒並み消灯されており何のお店かわかりづらい。これでは集客に差し障りがあるだろうが、仮に電力不足に配慮してLED照明を導入しても、周りの店が消灯中ならそれと足並みを揃えていないと周囲の目が厳しくなる恐れもあろう。また、以前は店舗から派手で大きな音で客の興味を引いていたラーメン店も、おとなしめのBGMを店内でのみ聞こえる程度にしていたが、これは個人的には歓迎

迎できる。売上にあまり変化がないなら、これで定着してほしい。

桜が満開になったと聞き、休日に千代田区の日本武道館周辺を散策しようと地下鉄に乗ると、九段下駅は大混雑でなかなか前に進めない。桜の見物なら電気の心配が全くなく、皆考えることは一緒なようだ。また、立て看板には今年はライトアップをしない旨の記載がある。パンフレットによれば環境配慮で LED 照明にする予定だったようだが、ライトアップを午後 6 時から午後 10 時までと予定していたところ、この時間帯が夕方の電力需要ピークにかかり、自粛ムードもあって致し方ないところなのだろう。

さて、現在はちょうど暖房も冷房も要らず、電力需要が年間では谷間となる時期で、東京電力の計画停電も打ち切りとなった。そのためか夜間営業を止めていた百貨店やスーパー、アミューズメント施設等も営業時間を元に戻しつつあるようだ。通りに面した店の看板も「節電中」の張り紙が取られ点灯しだしている。まだ華美な電飾は点灯していないようだが、これももうじき点灯しだすのだろうか。街に活気が戻る過程の 1 つと見れば喜ばしいが、近い将来にまた 3 月中旬の街並みに戻ることになる考えると複雑である。

必ず来る夏に慌てふためいて無理な節電や計画停電に至ることがないように、正確な情報に耳を傾けつつ、行政・企業・家庭がそれぞれのレベルでの対応を真摯に検討・準備し、先の計画停電実施時の混乱が繰り返されぬよう行動することを期待したい。夏が過ぎれば秋で一息はつけるが次に冬もやってくるし、来年もまた夏がやってくるのだから。

以上

お問い合わせ : [report@tky.ieej.or.jp](mailto:report@tky.ieej.or.jp)